

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書**

平成29年2月28日

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科内科学講座臨床免疫学

職名・学年 研究生

氏 名 中 坊 周一郎

助成の種類	平成 28 年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研究集会名	2016年欧州リウマチ学会年次集会 (EULAR2016)	
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()	
発表題目	<p>進行期リウマチ患者の一定数が活動性があるにも関わらずBoolean寛解として扱われている —エコーを用いた観察研究より— A certain portion of active established rheumatoid arthritis patients with significant joint destruction are misclassified as being in Boolean remission: A cross-sectional study using ultrasound sonography.</p>	
開催場所	英国 ロンドン 2016年6月8日～11日	
渡航期間	平成28年6月7日 ～ 平成28年6月12日	
成果の概要	<p>タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()</p>	
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円
	使用した助成金額	350,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳	<p style="text-align: right;">渡航費・滞在費 約27万円</p> <p style="text-align: right;">学会参加登録料 約8万円</p>
当財団の助成について	<p>(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)</p> <p>比較的簡便な手続きで、学会発表に必要な十分な額の助成を速やかに行ってくださいのため、大変ありがとうございました。</p>	

成 果 の 概 要

京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学
中坊 周一郎

【学会の概要】

学会名：2016年欧州リウマチ学会年次集会（EULAR2016）

開催地：英国 ロンドン

開催期間：2016年6月8日～11日

【学会内容】

欧州リウマチ学会（EULAR）は年に1回、ヨーロッパ各国持ち回りで開催されるリウマチ学に関する学会である。主にリウマチ性疾患（例：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス）に関する発表が行われ、その内容は基礎免疫学から臨床研究まで多岐にわたる。参加者は主に医師であるが、看護師、ヘルスケアワーカーさらには患者など幅広い。例年15,000人前後が参加し、秋のアメリカリウマチ学会と並ぶリウマチ学に関係した世界最大の学会である。

今回のEULAR2016には世界120か国から14,000人の参加があり、演題登録は4,100題を数えた。

EULARはまた、日常臨床に直結するguideline、recommendationが発表される場としても注目されるが、今回も関節リウマチ治療にパラダイムシフトをもたらした2010年のrecommendationの修正版が公表され、近年の新しい薬の位置づけが明確になった。

さらに、開発中の新薬に関する情報、あるいはそうした治療につながる基礎的な発表、また質の高い臨床研究の発表などに触れることができる非常に刺激的な学会であった。

【発表内容】

今回の私の発表は、近年急速に普及した関節エコーを用いた関節リウマチ（RA）の臨床研究である。

RAは全身の関節の滑膜炎を生じ、疼痛と関節変形により患者QOLを阻害する疾患である。治療目標は寛解であるが、この寛解は「医師の診察所見」、「検査所見」、「患者による疾患活動性の全般評価（PtGA）」の複合的指標で定義される。このうちPtGAは患者の主観に左右される曖昧さを含んでおり、特に進行期RA患者の場合は高度の関節破壊によりPtGAが下がりにくいことが知られる。よって実臨床現場ではPtGAが高くてもその他の活動性指標が良ければそれは良いとする考え方が一般的である。ただ、その妥当性についてエビデンスは乏しい。そこで、客観的に滑膜炎を評価出来る手法として関節エコーを用いてPtGAの高い患者と低い患者で滑膜炎の状態が異なるのかどうかを検証するとともに、それがRAの進行度によって異なるのかを検証した。

結果として、進行期のみならず早期RA患者であってもPtGAは滑膜炎の強さとは無関係であり、さらに進行期では医師の診察所見も滑膜炎を反映しにくくなることが判明した。これは

治療効果や患者の予後を評価するうえで極めて重要な結果で、今後臨床の様々な場面でエコーを用いた疾患活動性評価が必要となると思われる。

実際にポスターの前でのディスカッションでも多くの医師に日常臨床での有用性を評価していただき、研究の価値を実感することが出来、論文化に向けての方向性をより明確にすることが出来た。